



きりえ「夕映えの和白干潟」：くすだひろこ

和白干潟を守る会は 発足30周年を迎えます！

新年 おめでとうございます！！

2018年1月

和白干潟を守る会の環境保全活動は今年で30年になります。会員の皆さまのおかげで続けることができました。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、自然観察会や和白干潟まつり・クリーン作戦・鳥類調査（水質・砂質調査も）・和白干潟通信やパンフレットの発行・ホームページでの広報などの多くの活動を続けてきました。30年を第一歩にして、新たな気持ちで活動したいと思っています。30周年記念として、30年誌「未来につなごう和白干潟」と活動の動画を作成したいと思っています。どうぞお楽しみに！和白干潟を守る会の活動に対して、地域づくりネットワーク福岡県協議会より「ふくおか地域づくり活動賞」を受賞し、「生物多様性アクション大賞2017」では入賞いたしました。

ラムサール署名活動を行い、昨年3月に福岡市議会議長へ請願に添えて提出しました。8月には請願審査がありました。継続審査になりましたが、今後もラムサール条約登録へ向けての活動を続けていきましょう。「山・川・海の流域会議」では、立花山・唐原川・和白干潟の保全6グループが連携して、立花山から和白干潟の集水域保全活動を続けています。ミヤコドリは今冬は過去最高羽数の25羽が和白干潟に来ており、クロツラヘラサギも25羽を確認しています。ツクシガモは309羽を数えました。

2018年を迎え、世界の湿地や干潟の保全が進むことを心から願っています。今年も和白干潟を守る活動に皆さまのご協力をお願いします。多くの方が和白干潟の環境保全活動に参加して、和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となることを願っています！今年もどうぞよろしくお願ひします！

和白干潟を守る会 代表 山本 廣子



第29回 和白干潟まつり開催(11月19日)



2017年11月19日(日) 11:00~15:15 新しく購入したテント6張りを使って「第29回 和白干潟まつり」を開催しました。寒さにもかかわらず、約400名の参加があり、無事に楽しんで終わることができました。子どもたちが予想外に多く参加してくれたことは嬉しく励みになりました。出店者も、主催する守る会も年月を経てきた感慨もあり、来年の30回開催に向け盛り上げようという明るい雰囲気を感じられる締めくくりとなりました。反省会や後片付けなど、最後まで力を合わせて頑張ることができました。お疲れ様でした。(実行委員長：山本 廣子)



開会式

司会は有江さん、開会挨拶は山本実行委員長、生協支部委員長。今年も市長からのメッセージが届き、田浦さんが代読しました。



バードウォッチング

「野鳥の会」の田村さん、澤田さん、三好さんの指導で観察開始。40名参加。44種の鳥を見ることができました。



自然あそび

自然観察指導員の堀講師の指導で、子ども5名、大人4名が参加。木の実を探したり食べてみたり、自然の面白さを体験しました。



植物観察

神野講師の指導で、子ども6名、大人6名が参加。海岸植物の由来について学びました。動物散布・風散布・海流散布があることを知りました。



干潟の生きもの観察

藤井講師の指導で、子ども17名、大人7名参加。潮の引いた干潟に入り、生き物を探しましたが寒さでなかなか見つかりませんでした。



器楽演奏「モジャッコ」

ケーナで「コンドルは飛んでいく」などの演奏がありました。ウクレレと太鼓は友情出演でした。



コーラス 「うたごえサロン」

12名で「ミヤコドリ」や「海」などの歌を、会場を巻き込んで歌いました。



ミニシアター

東部子ども劇場の3名が「わらべうた遊び」「じゃんけんあそび」などを演じました。



ハモニカ演奏

初めての参加で、童謡の海の歌や「瀬戸の花嫁」などの歌謡曲を演奏しました。



紙芝居

かたつむりの歌あそびをしてから、紙芝居「コメツキガニのたび」を演じました。

ラムサール条約登録を目指して...約400名参加 (高田 将文)



九州青年合唱団

親子10名で「和の白の春」や沖縄の歌を楽しく歌いました。



マジックショー

4名でリレーマジックをしました。大人も子どもも楽しく熱心に見てくれました。



一言アピール

各団体が、活動や催し物についての予告をアピールしました。



手をつないで

大勢で手をつなぎ、海への思いを楽しく表現しました。



写真展・パネル展

パネルは観察会の様子と感想文や保育園児の絵など、好評でした。



模擬店・バザー

出店者17。食べ物関係5店舗。いずれも好評で、完売しました。



ラムサール宣言

参加者一同の大きな拍手で採択されました。

第29回和の白干潟まつりラムサール宣言 (抜粋)

1. 私たちは、これからも大切な和の白干潟の保全活動と環境保全の啓発活動を続けて行きます。
2. 福岡市に、市民にむけて、和の白干潟が福岡市の貴重な自然であり、保全の大切さを理解できる取り組みを進めることを求めます。
3. 福岡市に、「博多湾・和の白干潟のラムサール条約登録」の前提となる国の特別鳥獣保護区申請の方針を定め、具体化へ向けて早急に取り組むことを求めます。
4. 福岡県に、「博多湾・和の白干潟のラムサール条約登録」の前提となる国の特別鳥獣保護区申請を福岡市へ働きかけることを求めます。
5. 環境省へ、「博多湾・和の白干潟のラムサール条約登録」の前提となる特別鳥獣保護区設定申請を促すことを求めます。

2017年11月19日 第29回和の白干潟まつり参加者一同

福岡市長からのメッセージ (要旨)

第29回和の白干潟まつりの開催をお喜び申し上げます。

和の白干潟まつり実行委員会の委員の皆様をはじめ、参加者の皆様におかれましては、日頃から清掃活動や自然観察会など、和の白干潟の環境保全活動に熱心に取り組んでおられますことに、心から敬意を表します。

福岡市では、平成28年9月に策定した第二次博多湾環境保全計画に基づき、「生きものが生まれ育つ博多湾」の実現に向け、市民、NPO等市民団体、事業者、大学等研究機関など、各主体との共働により、施策を進めております。

今日の「和の白干潟まつり」をきっかけに、環境保全の取り組みが今まで以上に広がり、和の白干潟の自然が未来に引き継がれていくことを祈念いたします。



平成29年11月19日

福岡市長 高島 宗一郎

和白干潟の自然だより（秋～冬）

（山本 廣子）

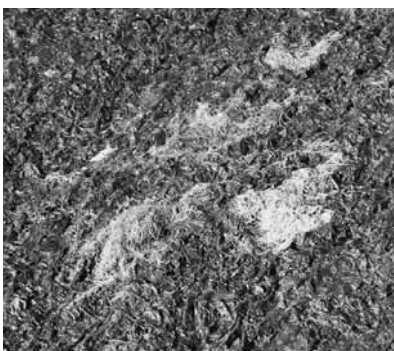
センダンの葉痕

和白干潟沿岸にはセンダンの木がたくさん自生しています。春には紫色の可憐な花が咲き、良い香りがします。秋には黄色い実がたくさんぶら下がっています。冬には葉が落ちて、そのあとに葉痕や冬芽が出てきます。センダンの葉痕は小さなサルの顔に見えて、観察会では虫眼鏡で子どもたちと観察します。他の落葉する木にも葉痕が見られ、いろんな動物に見えて面白いです。センダンの実の他にもアキグミ、ネズミモチ、ハマゴウ、マサキ、シャリンバイなど実がなっている木がたくさんあり、冬の小鳥たちの食料になっています。和白干潟のアシ原や樹林帯は、心休まる散歩道です。



センダンの葉痕

アオサ



アオサとオゴノリ

和白干潟では困りもののアオサですが、昨秋はやや少なめでした。それでも沿岸には緑色のアオサの堆積帯ができて腐ります。観察会で沿岸を歩くとアオサでヘドロになった部分に足を取られてしまいます。沿岸に打ち上げられたアオサに混じって、オゴノリが紫色に変化しています。寒いのでウミニナたちも砂に潜っています。干潟は眠っているように見えますが、その下にはたくさんのカニや貝やゴカイなどの生き物たちがすんでいるのです。和白干潟は冬鳥たちを優しく迎えて、食べ物とねぐらを提供しています。和白干潟を見ていると、心が和みます。

ツクシガモ カモ科 全長：63cm 絶滅危惧 B類（国）準絶滅危惧（福岡県）

和白干潟ではツクシガモは以前は珍しい鳥でしたが、諫早湾の閉め切りの影響で1997年頃より冬鳥として和白干潟に訪れるようになりました。羽数は2005年には1000羽を超えましたが、近年は300羽程が越冬しています。11月下旬に飛来して、2月頃には渡って行くようです。特に九州北部に多く渡来している鳥で、筑紫鴨と名前がついたそうです。マガモなどよりは少し大きく胴体が太く、白い羽色も美しく目立ちます。ミヤコドリと色合いが似ています。ツクシガモが多く来ると、ミヤコドリは体が細いので目立たなくなります。



ツクシガモ

冬の和白干潟のしぜん

- アシ原：**冬のアシ原では木の実がたくさんなっていて、シロハラやツグミが見られます。枯れたアシ原にはオオジュリンやツリスガラもやってきます。ウグイスの地鳴きも聞こえます。ハマシオンの綿毛やアシの穂もホクホクにふくれて、アシ原の中は暖かいです。
- 干 潟：**冬は北西の風が吹きつけ白波が立ち、干潟には波模様が美しく残ります。ヒドリガモが緑色のアオサを食べて、緑色の糞を干潟に落としています。寒いのでウミニナも干潟に潜ってしまい、何もいない砂浜に見えます。
- 水 鳥：**11月にはクロツラヘラサギが最大25羽飛来し、12月には冬鳥がそろいました。ミヤコドリは2017年12月現在25羽で過去最高羽数。ツクシガモは309羽です。ヒドリガモの中にアメリカヒドリが1羽混じていました。カモやカイツブリ、カモメ、シギ・チドリの仲間など、冬は水鳥が最も多い季節です。



「ふくおか地域づくり活動賞」受賞

11月18日、地域づくりネットワーク福岡県協議会が主催する今年度の「ふくおか地域づくり活動賞」に応募し、グランプリ（知事賞）候補として「ふくおか地域づくりフォーラム」で活動内容のプレゼンテーションをすることになり、久留米まで行ってきました。グランプリ候補となった6団体のプレゼンテーションの結果、和白干潟を守る会は活動賞を受賞しました。（有江）

「生物多様性アクション大賞2017」で入賞

12月12日、「国連生物多様性の10年日本委員会」が推進する生物多様性MY行動宣言の5つの部門のうち、「守ろう部門」に応募し、大賞には入りませんが、入賞しました。環境省と農林水産省が全国各地の生物多様性の保全や持続可能な利用につながる行動を表彰するものです。（山本）



香住丘小学校5年生の総合学習で講演

11月6日、おだやかな秋の陽が差し込む音楽教室に5年生147名が待っていました。ここで生まれ育った山本代表の臨場感ある話は、生徒たちの興味を引いたことと思います。生徒たちは今年すでに3度も和白干潟に行ったそうで、7人の子どもたちの質問はなかなか鋭く、要を得ていました。今後はもう1回干潟に冬鳥を見に行き、今回の講演を参考に「和白干潟新聞」を作り、4年生に渡すそうです。（村上）

九州産業大学経済学部で特別講義

11月14日行政学の「宗像ゼミナール」で山本代表が特別講義をしました。参加者は45名、テーマは「未来につなごう和白干潟！（和白干潟の自然と環境保全活動）」でした。大学近くに和白干潟があり、1987年和白干潟の埋め立て計画を知り、保全願いの請願書を福岡市議会に提出し、埋め立ては免れたが、沖合に和白干潟より広い人工島が出来たこと、「ラムサール条約」登録に向けての取り組みなどを話しました。（田辺）



「バードウォッチングin和白干潟2017」 (和白干潟保全のつどい主催)

12月9日、曇り空ながら風も無く、寒さも一段落しました。参加者39名、一般参加は29名、守る会からは7名が参加。初めての子ども連れの参加者が多く、にぎわいました。ちょうど満ち潮でどんどん鳥たちが沿岸に近づき、餌を採る光景が見られ、より一層親しんでもらえたようです。観られる野鳥の名前を予想して当てるビンゴゲームも好評でした。（今村）

和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます！！

- ★12/15「MS&ADインシュアランスグループホールディングス」様より寄付金を頂きました。
- ★12/26「日本ユネスコ協会連盟」「住友ゴム工業(株)」様より応援金を頂きました。

気が付いたらあなたも電話してください！

▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分たちでゴミを拾った時
092-282-7146（港湾空港局維持課）

▼沖のアオサをとってほしい時
092-282-7153（港湾空港局環境対策課）



＊＊ お願い！！ ＊＊

- 干潟でのゴルフやラジコンやドローンは危険です。やめましょう！
- 干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう！（ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止）
- 犬のフンの始末は飼い主がしましょう！

弱った野鳥を見つけた時 → 092-513-5611 福岡県筑紫保健福祉環境事務所（地域環境課）
092-643-3367 福岡県環境部自然環境課野生生物係

●2017年9月

- 9/2 (土) 和白干潟通信124号編集会議
- 9/3 (日) 2017年秋期シギ・チドリ調査2回目(今津)
アオサのお掃除大作戦1回目(保全のつどい)
- 9/5 (火) 2017年秋期シギ・チドリ調査2回目
(博多湾東部)
- 9/8 (金) 古賀市環境市民会議の和白干潟見学協力
- 9/9 (土) 山・川・海の流域会議定例会
- 9/10 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 9/11 (月) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 9/14 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 9/15 (金) 美和台小学校5年生の和白干潟観察会
- 9/18 (月) 2017年秋期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
- 9/19 (火) 筑陽学園中学3年生の校外理科学習
- 9/20 (水) 2017年秋期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 9/23 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 9/24 (日) 和白干潟通信124号編集会議
- 9/26 (火) 守る会30年誌作成会議

●2017年10月

- 10/1 (日) アオサのお掃除大作戦2回目(保全のつどい)
- 10/7 (土) 立花山観察会(山・川・海の流域会議)
- 10/8 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 10/10 (火) 和白干潟通信124号発送会
- 10/11 (水) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 10/12 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 10/14 (土) ダンロップグループの和白干潟観察会
- 10/18 (水) 西戸崎小学校5年生の和白干潟観察会
- 10/24 (火) 守る会30年誌作成会議
- 10/28 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 10/31 (火) 第29回和白干潟まつり第2回実行委員会

●2017年11月

- 11/6 (月) 香住丘小学校5年生に「和白干潟の自然と環境保全活動」講演
- 11/9 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 11/11 (土) 山・川・海の流域会議/イオン黄色いレシートキャンペーン
- 11/12 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 11/14 (火) 九州産業大学宗像ゼミ特別講義「未来につなごう和白干潟」
- 11/17 (金) 柏陵高校1年生の和白干潟観察会
- 11/18 (土) 「ふくおか地域づくり活動賞」受賞
- 11/19 (日) 第29回和白干潟まつり
- 11/25 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察

2017年和白干潟の5大ニュース

1. ミヤコドリが過去最高の25羽飛来
2. ラムサール条約登録を求める請願が継続審査となる
3. 「ふくおか地域づくり活動賞」受賞、「生物多様性アクション大賞2017」入賞
4. 干潟まつりは新しいテントを購入して大盛況
5. リーフレット「四季の和白干潟の自然Ⅱ(雁ノ巣海岸)」発行

(2017年12月25日の望年会にて)



1127ツタの新芽
Hiro.

干潟のつぶやき「コメツキガニが消えた？」

コメツキガニはスナガニ科で甲羅の幅が10ミリほどの小さなカニで、和白干潟では一番たくさんいるカニです。潮が引くと巣穴から這い出し、はさみで砂をつまんで口に入れ栄養分をろ過して食べ、残った砂は砂団子にして吐き出します。巣穴の周りは砂団子でいっぱいです。11月の中旬に寒波が訪れ、昨日の天候がウソのように寒くなりました。いつもは浜辺や干潟にあるカニの巣穴や砂団子が見当たりません。いつもコメツキガニがたくさんいる所をシャベルで掘っても見つかりません。コメツキガニは干潮時間が長くて、天候が悪い日や水温が低い日には巣穴から出てこないのですね。昨日まであんなにたくさんいたコメツキガニが見つからなかった時は「コメツキガニが消えた？」とってしまいました。きっともっと深いところに隠れて元気に生きているんだろうけど、寒い冬の間はどうしているのか気になります。コメツキガニ君、また元気な姿を見せてね。(山之内)



(コメツキガニ)

10/7 秋の観察会「立花山散策」(山・川・海の流域会議主催)

参加者17名で、爽やかな秋空の下、多くの草花や樹木、キノコなどを観ることができました。立花山グリーンガイドの会の湖尻さんからレクチャーを受けてスタートし、麓からゆっくりとヤマダイコン、ヤマユリ、ヤマウドなどの植物やヒノキ、エゴノキ、タブノキなどの樹木を観察し、頂上から和白干潟や博多湾を一望することが出来ました。(松田)



10/14 チームエナセーブ

「ダンロップグループ」の観察会とクリーン作戦



初めに和白干潟の話をしてから、望遠鏡で鳥を見てもらいました。クロツラヘラサギ、ミヤコドリ、ミサゴ、カモなどを一通り見た後、生き物観察と植物観察のグループに分かれました。生き物観察では、アシ原に行くとアシハラガニがすぐに見つかりました。子どもたちも軍手をしていたので、怖がらずにさわることができました。貝の浄化実験もできました。観察会の後に、クリーン作戦をしました。子どもたちも熱心にアオサを運びました。(有江)

10/18 西戸崎小学校5年生81名と先生5名の観察会

山之内さんが干潟の働きや鳥・カニたちなどを、紙芝居を見せながら話しました。生徒たちは雨にも負けずに、熱心に聴いていました。また心配していたアサリもたくさん採れて、貝の浄化実験も上手いきました。生徒からの質問は「和白干潟では何種類の鳥が見られるか?」「絶滅危惧種はいるか?」などがありました。干潟体験はみんな楽しく、また来たいとの感想でした。(河上)



11/17 県立柏陵高校環境科学コース1年生39名と先生4名の生物探究校外実習



最初に紙芝居を使って干潟について詳しく説明しました。さすが環境科学の生徒らしくみんな熱心に聴き、ほとんどがメモを取っていました。最初はバードウォッチングで、クロツラヘラサギとミサゴを観察、皆初めて見る鳥に「かっこいい」とか「すごい」の言葉が聞かれました。「楽しかった」「カニとバードウォッチングが良かった」と感想を述べました。(松田)

12/3 精華女子短大2年生34名と先生1名の観察会

きりえ館で山本さんが干潟の働きや鳥や生き物たちについて説明し、干潟に移動しました。望遠鏡を覗いて鳥を観察し、アシ原を抜け砂洲でウミニナやホトトギスガイを観察。海の広場の紅葉を背景に記念撮影をして、きりえ館に戻りました。ギャラリーでは山本さんのきりえを見ながら今日の感想を聞きました。「干潟の水が綺麗だったのでびっくりした」「いろいろな鳥がいることに驚いた」「クロツラヘラサギのお尻が可愛かった」「ミヤコドリも見れて良かった」「ミサゴがかっこよかった」など、直に鳥を見ることができ、印象深かったようです。最後に山本さんが干潟のマジックを披露して喝さいを浴びました。(今村)



新年度の会費納入をお願いします!

今年も和白干潟を守る会の一員として、和白干潟の自然を守る活動のためにお願いします。

年会費 個人2,000円、団体5,000円

郵便振替 01720-4-23860

和白干潟を守る会

同封の振替用紙をご利用下さい。
郵便局の受領書を領収書に替えさせて
頂きます。
行き違いの際はご容赦下さい。

守る会問い合わせ窓口 ホームページ <http://wajirohigata.sakura.ne.jp>

入会 / 観察会 (申込等) 山之内 芳晴 Tel. 090-8412-2663

クリーン作戦 田辺 スミ子 Tel. 090-1346-0460

広報 / 調査 / 定例会議 山本 廣子 Tel/Fax. 092-606-0012

干潟まつり 今村 恵美子 Tel/Fax. 092-942-5282



和白干潟を守る会 2018年度総会を開催します！

日時：2月24日（土）10時半～13時

場所：和白干潟を守る会事務所

総会では前年度の活動報告や会計報告を行い、新年度の活動方針やスケジュール、予算、役割分担などをみんなで意見を出し合い、決定します。（2月臨時定例会議を引続き開催します）

2018年日本湿地ネットワーク（JAWAN）総会・シンポジウム

日時：3月31日（土）13:00～17:10

場所：船橋男女共同参画センター研修室（千葉県船橋市宮本2-1-4 船橋スカイビル1階）

13:00～13:40「総会」14:00～17:10「シンポジウム」日本の湿地を守ろう2018」



定例スケジュール

定例会議（1/27, 3/24）

毎月第4土曜日10時半～13時 守る会事務所にて開催。

時間変更などの事前確認をして、ご参加下さい。

和白干潟を守る会事務所・・・福岡市東区和白1-14-37 きりえ館1階

以下は参加自由です。仲間が待っています！

クリーン作戦と自然観察（1/27, 2/24, 3/24）

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合

長靴があると便利。駐車場なし。

和白海岸探鳥会（2/11, 3/11, 4/8）主催：日本野鳥の会

毎月第2日曜日9時～12時 JR 和白駅前 和白公園集合 参加費：野鳥の会会員 100円、一般300円

会員募集中！

年会費 個人 2,000円

団体 5,000円

カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860

和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い

和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い（車の運転、記録）、パソコンを使った資料作成、観察会のお手伝い（写真撮影）等です。

参加をお待ちしています！

和白干潟の鳥たち（その81） [全長48cm]

アメリカヒドリ (カモ目カモ科 American Wigeon) アメリカ緋鳥



（写真撮影：三宅 僚）

アメリカヒドリは冬鳥として和白干潟を訪れていますが、数は少なく1～2羽程度です。北米大陸が生息地で、日本には少数が渡来し越冬しているそうです。ヒドリガモに似ていますが、成鳥雄は額から頭頂は白く、顔は灰色で、目の後方に緑色光沢の部分があります。ヒドリガモとの雑種の個体もあるので、注意して見る必要があります。昨年11月から和白干潟に1羽が飛来していて、ヒドリガモの群れと一緒に行動しています。多くのヒドリガモの中に混じっているので、探すのは非常に難しいです。しかし珍しい鳥なので、見つけた人がいると皆で真剣に探します。鳴き声もヒドリガモによく似ていて「ピュー ピュウ」と鳴くそうです。（山本 廣子）

【編集】田辺 スミ子・今村 恵美子・高田 将文・山本 廣子・山之内 芳晴

<カット>くすだひろこ

次号は2018年4月発行予定



【編集後記】和白干潟を訪れるミヤコドリは毎年10羽程度でした。3年ほど前から17羽、20羽と徐々に増え、去年は25羽になりました。毎年越冬している鳥の子どもたちがきたのかもしれない、と嬉しくなります。今年は何羽になるか楽しみです（山之内 芳晴）